

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム（B）】

受託団体名 浜松学院大学

1. 事業名称

日本語能力を生かすための南米日系人青少年の地域活動支援事業

2. 事業の目的

本事業の取り組みは、学習は教室という限られた環境の中で学習者個人の頭の中で起こるのではなく、社会的な実践の枠組みの中で生じる過程であると捉えたレイブとウェンガーの正統的周辺参加（LPP: Legitimate peripheral participation）理論に基づいている。受講者は公民館活動という実践共同体への参加を通して、共同体の人々との関係性を築き参加を深めていくことで、物事の見方や自己に対する見方が変わり地域の実践共同体の成員としてのアイデンティティの実感を増大させていく。公民館は地域住民の交流や地域文化の促進を目的とした地域の学習拠点である。公民館の学習活動には地域住民の生活に根付いた知識・技能など学習資源が自然と習得されるカリキュラムが埋め込まれており、教室の学習活動のようにあらかじめ決められた脱文脈的な内容をあからさまに教え込むような構造はない。受講者は公民館の学習活動の参加を通して日本語運用能力に加えて日本語文書作成能力（コンピューター・リテラシー能力育成）及び公民館の活動を発信する能力（メディア・リテラシー能力育成）を育成することも事業目的とした。

3. 事業内容の概要

本事業の内容は北部協働センター（旧北部公民館）の活動の中からその中心的なイベントであるジュニア公民館と公民館まつりに公民館講座の実施を加えた3つの活動への取り組み（地域参画プログラム）と活動を発信することである。

(1) ジュニア公民館活動への正統的周辺参加

北部協働センターのジュニア公民館の校区の7つの小・中学校の児童・生徒（ジュニア公民館経験者である高校生・大学生、社会人は熟練者として手伝う）が実施する公民館活動に参加する。ジュニア公民館当日は参加する小・中学生による様々な催し物が実施され、小・中学生による学習成果物が展示される。小・中学生はジュニア公民館実行委員会を組織して、催し物の企画から準備、会場づくり、展示まで分担して行う他、ジュニア公民館当日に来館する地域住民を迎えるためのホスピタリティも学ぶことになる。小・中学生の時にジュニア公民館を経験した高校生、大学生、社会人は熟練者としてジュニア公民館活動に参加する。しかし、小・中学生は特定の熟練者から指示を受けたりするような学習場

面で見られる教授学的構造は存在しない。公民館活動に参加者間においては熟練のレベルにおける階層的で同遠心的な構造が存在し、本事業の受講者はジュニア公民館活動での参加は部分的で周皮的であるが、継続的に参加することでよりゆるやかに中心的な参加へと移動していく。

(2) 公民館まつりに参加し、公民館まつりに関わる活動取材し発信する。

公民館まつりは地域住民の日常の学習活動の成果の場である。受講者は公民館まつりに参加する地域住民との相互交流を通して公民館の役割や活動を学ぶ。公民館や公民館活動を多くの外国人に知らせるための活動を行う。公民館活動の取材のテーマ、内容を決定し活動に従事する参加者へのインタビュー撮影、編集しインターネットで発信するための技術を身につける授業を実施した。

(3) 公民館講座により重要な役割で参加する。

部分的に参加したジュニア公民館、公民館まつりの活動からより十全的な活動へと移行する。受講者は外国人市民を対象とした公民館講座（「日本の公立学校について知ろう」）で講師を務める日本人の大学生の支援者の役割として公民館講座に対して十全的な参加を果たした。公開講座では受講者は支援者として、講座の内容、講座での配布資料の準備・作成、講座受講者（公立学校に子どもを通わせる外国人保護者）の勧誘、講座当日の通訳などに従事した。

(4) 受講者は公民館活動に参加する校区の外国人の子どもを対象としてインタビュー調査を実施し、外国人の子どもの意識や考えを報告する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	課題	検討内容
1	10月14日	2	浜松学院大学	津村公博 澤田敬人 パブロ・ナダ ヨシ	日本語能力を生かすための南米日系人青少年の地域活動支援事業	コーディネーターの役割
2	2月7日	2	浜松学院大学	津村公博 澤田敬人 パブロ・ナダ ヨシ	日本語能力を生かすための南米日系人青少年の地域活動支援事業	個々の受講者の学習のふり返りと動機づけ

【写真】

5. 取組についての報告

○取組1：地域参画プログラム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

高丘地区に居住する定住外国人第2世代が地域の学習拠点である北部協働センター（旧北部公民館）の活動に参加できる体制を整備する。

(2) 取組内容

広範囲で多様な参加（正統的周辺参加）を継続的に実施することで、ゆるやかに学習が生起されるような枠組みを構築する。

- A) 公民館の役割や活動について理解を深める。
- B) 公民館活動が多様な参加ができることを伝える。
- C) 周辺の参加の度合いを深めながら（北部ジュニア公民館、北部公民館まつり）十全的な参加（公民館講座）へ導く。
- D) 公民館活動を通して、市民性の形成を確認する。

(3) 対象者： 高丘地区に居住する定住外国人第2世代

(4) 参加者の募集方法

高丘地区に居住する定住外国人第2世代から構成されるコミュニティ（Minority Youth Japan）を通して募集する。

(5) 参加者の総数 7 人

(6) 開催時間数（回数） 49 時間 （全 19 回）

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	7月28日(土)	3時間	6人	ブラジル	ジュニア公民館の趣旨と内容	北部ジュニア公民館実行委員会への参加
2	7月31日(火)	3時間	3人	ブラジル	北部ジュニア公民館の活動への参加	北部ジュニア公民館実行委員会・バルーンアート、お化け屋敷準備・手伝い
3	8月2日(木)	3時間	3人	ブラジル	北部ジュニア公民館の活動への参加	北部ジュニア公民館実行委員会・キラキラ・レインボー準備・手伝い
4	8月4日(土)	6時間	6人	ブラジル	北部ジュニア公民館の活動(当日)	北部ジュニア公民館の活動参加
5	8月6日(月)	2時間	3人	ブラジル	参加の形態について	北部ジュニア公民館の活動の反省会
6	8月25日(土)	2時間	5人	ブラジル	公民館の役割について	地域の学習拠点としての公民館の役割を考える
7	8月31日(金)	2時間	4人	ブラジル	公民館まつりの取材の方法と内容	公民館まつりへの参加及び公民館まつりに関する取材内容の検討

8	10月2日(火)	2時間	5人	ブラジル	公民館まつりへの参加	公民館まつりへの参加模擬店の準備/取材内容のリスト作成(1)
9	10月16日(火)	2時間	4人	ブラジル	公民館まつりへの参加準備	公民館まつりへの参加模擬店の準備/取材内容のリスト作成(2)
10	10月23日(火)	2時間	5人	ブラジル	公民館まつりへの参加準備	公民館まつりへの参加模擬店の準備
11	10月27日(土)	6時間	6人	ブラジル	公民館まつりの撮影	公民館まつり模擬店活動・公民館まつり関係者へのインタビュー、模擬店撮影
12	11月20日(火)	2時間	5人	ブラジル	公民館講座の趣旨とテーマについて	北部公民館講座「(外国人児童・生徒と保護者を対象とした)日本の公立学校について学ぶ」への取り組みの説明
13	11月23日(火)	2時間	4人	ブラジル	公民館講座での役割について	公民館講座での役割・内容について受講者から意見を求める。
14	12月4日(火)	2時間	5人	ブラジル	講師と支援者(受講者)との役割の理解	テーマ:公立学校のカリキュラムをどう伝えるか(公民館講座開催準備)
15	12月11日(火)	2時間	5人	ブラジル	講師と支援者(受講者)との役割の理解	テーマ:公立学校の行事をどう伝えるか(公民館講座開催準備)
16	1月20日(日)	2時間	4人	ブラジル	講座準備、教材の作成	テーマ:外国人学校との比較をどう伝えるか(公民館講座開催準備)
17	1月23日(水)	2時間	4人	ブラジル	講座準備、教材の作成	テーマ:高校進学をどう伝えるか(公民館講座開催準備)
18	1月27日(日)	2時間	4人	ブラジル	リハーサル	講座リハーサル(公民館講座開催準備)
19	3月10日(日)	2時間	2人	ブラジル	公民館講座当日	北部公民館講座「(外国人児童・生徒と保護者を対象とした)日本の公立学校について学ぶ」の実施

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

受講者の学習成果の検証としてフォーカス・グループ・ディスカッションを実施している。フォーカス・グループ・ディスカッションの概要は(5)その他参考資料に付した。

(10) 改善点について

受講者はもともと地域の公民館とのつながりが希薄であるため、公民館活動へのアクセスの役割を担う者の存在が必要であった。本事業では地域で育った定住外国人第2世代がコーディネーターの役割を担ったが、コーディネーターの役割が大きすぎると受講者の公民館へのアクセスの機会を奪い、活動参加におけるコーディネーターへの依存度も大きくなる。そのため、コーディネーターに個々の受講者の参加への頻度によりアクセスの度合いや方法を変える多様な足場(スキヤフオールディング)を作り、受講者が柔軟な参加が行えるように指示した。

○取組 2： コンピューター・リテラシー能力育成プログラム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

定住外国人第2世代は、ワープロソフト（日本語入力）で文書を作成できる者は少ない。公立中学校までの基礎教育期間中は、コンピューターの基本的な構成や機能を学ぶだけで、ワープロソフト（日本語入力）による日本語文書作成を教える授業は少なく、定住外国人第2世代は中学校を卒業して就労する者が多く日本語文書作成能力を身に付けずに就労する者が多い。一方、外国人学校はコンピューター環境が十分整備されておらず、ワープロソフトでの日本語の文書作成の授業は行われていない。しかし、実際にはワープロソフトの使用を条件に人材募集を行う企業も多く、ワープロソフト操作能力の欠如が就職の障壁となることもある。厚生労働省は日本人の若者の就労支援を目的として「地域若者サポートステーション」事業の中で「ITを活用した若者就労支援プログラム」を実施しているが、定住外国人に対しての同様の支援はほとんど見られない。経済不況以降、浜松市では外国人に対する直接雇用や正規雇用が増え（「2010年度浜松市における南米系外国人及び日本人の実態調査」浜松市国際課）、それに伴い日本語文書作成能力など幅広い雇用能力を求める企業が増えている。

本事業は、ワープロソフトを使い日本語文書を作成する能力を身につけることで受講者の雇用能力を促進すること目的とした。

(2) 取組内容

ワープロソフトの操作の基礎を学び、受講者が実際に参加した地域参画プロジェクトなどの報告書、インタビュー調査票、取材ノートの他、職務履歴書などを日本語で作成する能力を身につける授業を実施する。

(3) 対象者

高丘地区に居住する定住外国人第2世代

(4) 参加者の募集方法

高丘地区に居住する定住外国人第2世代から構成されるコミュニティ（Minority Youth Japan）を通して募集する。

(5) 参加者の総数 6 人

(6) 開催時間数（回数） 35 時間 （全 17 回）

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	授業概要
1	10月4日（木）	3時間	4人	ブラジル	ワープロソフトの基本操作	マイクロソフトワードの起動・終了・保存（自動保存・上書き保存）/文字入力
2	10月11日（木）	3時間	5人	ブラジル	マウス・画面の基本操作	画面構成について（タイトルバー、メニューバー、ツールバー、ルーラー、スクロールバー、カーソル）

3	10月18日(木)	1時間	4人	ブラジル	マウス・画面の基本操作	画面構成について(2)(分割バー、マウスポインター、作業ウインドー、カーソル)
4	11月1日(木)	2時間	4人	ブラジル	ワープロソフトの基本操作	書式設定(フォント・サイズ・太文字・斜字、タブの設定、段落設定)
5	11月8日(木)	2時間	4人	ブラジル	簡単な文書の作成と保存	文書レイアウト(用紙サイズ・余白の設定、文字数と行数の設定、ヘッダーとフッター)
6	11月15日(木)	2時間	4人	ブラジル	文字入力の基本操作	文字入力・特殊文字入力/漢字変換(1)
7	12月6日(木)	2時間	4人	ブラジル	文字入力の基本操作	漢字変換(2)
8	12月13日(木)	2時間	4人	ブラジル	文字入力の基本操作	漢字変換(3)
9	1月10日(木)	2時間	5人	ブラジル	文書の装飾とレイアウト	表の作成と挿入(セル・行・列の挿入、罫線、網掛けと背景の色)
10	1月17日(木)	2時間	4人	ブラジル	文書の装飾とレイアウト	クリップアート・ワードアートの使い方(編集と挿入)
11	1月24日(木)	2時間	4人	ブラジル	文書の装飾とレイアウト	クリップアート・ワードアートの使い方(編集と挿入)
12	1月30日(木)	2時間	4人	ブラジル	文書の装飾とレイアウト	クリップアート・ワードアートの使い方(編集と挿入)
13	2月7日(木)	2時間	4人	ブラジル	テンプレートの作成	テンプレートを活用して文書作成(ポスターの作成2)
14	2月14日(木)	2時間	4人	ブラジル	テンプレートの作成	テンプレートを活用して文書作成(履歴書の作成1)
15	2月21日(木)	2時間	4人	ブラジル	テンプレートの作成	テンプレートを活用して文書作成(履歴書の作成2)
16	3月6日(水)	2時間	4人	ブラジル	テンプレートの作成	テンプレートを活用して文書作成(職務履歴書の作成1)
17	3月13日(水)	2時間	4人	ブラジル	テンプレートの作成	テンプレートを活用して文書作成(職務履歴書の作成2)

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

受講者全員がワープロソフトの操作に慣れ、日本語の文書が作成でき、一部の上級者は、履歴書や簡単な報告書を作成できる能力を習得した。

(10) 改善点について

授業当初はワープロソフトの基本操作や日本語入力が全くできない者も含めて、受講者にワープロの日本語文書作成能力に大きな差があり、一斉授業を進めることができなかった。そのため、個々の受講者の能力に合わせた授業に取り組んだ。

○取組3：メディア・リテラシー能力育成プロジェクト

(1) 体制整備に向けた取組の目標

輸送用機器を中心とした企業の集積地である静岡県西部地域は、南米日系の定住外国人を始め多くの外国人が居住している。静岡県西部地域において「送り手」も「受け手」も定住外国人であるエスニック・メディアが存在している。「送り手」は定住外国人第1世代が形成するエスニック・コミュニティが担い、「送り手」が、正確ではないむしろ恣意的な編集による情報を伝えることもあり、2008年の経済危機により外国人の生活が不安定な状態に陥った際には「送り手」が「受け手」の不安をあおるような情報を流し、エスニック・コミュニティと地域社会との隔離につながる危険性さえ孕んでいた。

定住外国人第2世代のグループ（マイノリティ・ユース・ジャパン）は、(1) エスニック・コミュニティに正確な情報伝達の機能に加えて、(2) エスニック・コミュニティと地域社会との相互理解の機能を併せ持つエスニック・メディアの設立を目指していた。本取組はマイノリティ・ユース・ジャパンのメンバーをコーディネーターとして、エスニック・コミュニティに地域の情報を伝えると同時にエスニック・コミュニティと地域社会間との相互理解を促進することを目標とした。

(2) 取組内容

- ① 公民館活動に参加して熟練者（地域住民）の活動を観察しながら、熟練者との関係性を築く。
- ② 調査票（半構造化インタビュー）を作成する。
- ③ インタビューを実施する。
- ④ インタビュー内容を分類しまとめる。
- ⑤ インタビュー動画を編集し USTREAM で発信する。

(3) 対象者

高丘地区に居住する定住外国人第2世代

(4) 参加者の募集方法

高丘地区に居住する定住外国人第2世代から構成されるコミュニティ（Minority Youth Japan）を通して募集する。

(5) 参加者の総数 9 人

(6) 開催時間数（回数） 75 時間 （全 35 回）

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	6月27日(土)	2時間	9人	ブラジル	新聞記事の視点・傾向	日本の新聞のニュース記事を読む
2	6月30日(土)	2時間	8人	ブラジル	タウンミーティングの準備・資料読み(定住外国人の生活と就労)	デカセギ第2世代と中川内閣府特命担当大臣(当時)とのタウンミーティングにおけるテーマを考える
3	7月4日(水)	3時間	8人	ブラジル	タウンミーティングの準備・資料読み(定住外国人の教育)	デカセギ第2世代と中川内閣府特命担当大臣(当時)とのタウンミーティングにおけるテーマを考える
4	7月7日(日)	3時間	8人(+52人)	ブラジル	タウンミーティングへの参加(定住外国人の教育)	デカセギ第2世代と中川内閣府特命担当大臣(当時)とのタウンミーティングの実施
5	7月23日(月)	2時間	7人	ブラジル	タウンミーティングの参加報告	デカセギ第2世代と中川内閣府特命担当大臣(当時)とのタウンミーティングのふりかえりと意見交換
6	7月24日(火)	2時間	7人	ブラジル	タウンミーティングの報告書の準備	デカセギ第2世代タウンミーティングの文字起し作業
7	7月27日(金)	2時間	6人	ブラジル	タウンミーティングの報告書の作成	デカセギ第2世代タウンミーティングの報告書の作成(1)
8	8月23日(木)	2時間	7人	ブラジル	タウンミーティングの報告書の作成	デカセギ第2世代タウンミーティングの報告書の作成(2)
9	8月24日(金)	2時間	7人	ブラジル	インタビューの撮影方法についての技術指導の作成	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査インタビュー・ガイド効果的なインタビューの撮影方法について(1) - 技術指導の作成
10	8月30日(木)	2時間	6人	ブラジル	インタビュー調査票の作成	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査票の作成
11	10月1日(月)	2時間	6人	ブラジル	インタビューの撮影方法についての技術指導	効果的なインタビューの撮影方法について(2) - 技術指導
12	10月9日(火)	2時間	7人	ブラジル	エスニック・メディアの役割について	エスニック・メディアの役割について考える(集団間機能、集団内機能、社会安定機能)
13	10月15日(月)	2時間	6人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のイン	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査の経過の報告(1)

					タビユー調査（調査票の作成）	
14	10月22日(月)	2時間	7人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査	外国人児童への対面式のインタビュー調査の経過の報告(2)
15	10月30日(火)	2時間	7人	ブラジル	外国人児童・生徒の不就学の問題について	外国人児童・生徒の不就学の問題について考えるー不就学ゼロ作戦-特別講師
16	11月2日(金)	2時間	6人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査に参加した受講
17	11月5日(月)	2時間	7人	ブラジル	エスニック・メディアについて	エスニック・メディアを知る(1)「Alternativa Nishi」
18	11月9日(金)	2時間	8人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査	外国人児童への対面式のインタビュー調査の経過の報告(3)
19	11月13日(火)	2時間	4人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査に参加した受講者を対象としたグループ・ディスカッション(2)
20	11月14日(水)	2時間	4人	ブラジル	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査	外国人児童・生徒への対面式のインタビュー調査に参加した受講者を対象としたグループ・ディスカッション(3)
21	11月17日(土)	3時間	6人	ブラジル	エスニックメディアについて	エスニックメディアを知る(2)「IPCTV - Globo Internacional」
22	12月3日(月)	2時間	7人	ブラジル	衆議院選挙立候補者への調査	衆議院選挙立候補者への調査アンケート調査(質問項目の作成)
23	12月10日(月)	2時間	6人	ブラジル	日系二世世代の生活と暮らしと社会	「日系二世世代がより生活しやすい、暮らしやすい社会をつくるために」12の提案の作成(1)
24	12月23日(日)	3時間	5人	ブラジル	日系二世世代の生活と暮らしと社会	「日系二世世代がより生活しやすい、暮らしやすい社会をつくるために」12の提案の作成(2)
25	1月8日(火)	3時間	6人	ブラジル	衆議院選挙立候補者への調査	衆議院選挙立候補者への調査アンケート調査結果の報告書作成
26	1月14日(月)	2時間	6人	ブラジル	衆議院選挙立候補者への調査	衆議院選挙候補者へのアンケート調査結果からー外国人の政治参加を考える。
27	1月15日(火)	3時間	5人	ブラジル	デカセギ第2世代へのインタビュー	デカセギ第2世代へのインタビューの実施と配信(USTREAM)

					の実施	
28	1月18日(金)	2時間	6人	ブラジル	デカセギ第2世代へのインタビューの実施	デカセギ第2世代へのインタビューの実施と配信(USTREAM)
29	1月21日(月)	3時間	5人	ブラジル	ブラジルの教育について	ブラジルの教育について(1)特別講師
30	1月22日(火)	2時間	6人	ブラジル	ブラジルの教育について	ブラジルの教育について(2)特別講師
31	3月4日(月)	2時間	5人	ブラジル	Adobe Premiere Pro プロジェクトの設定	Adobe Premiere Pro プロジェクトの設定と作成、映像の取り込み
32	3月7日(木)	2時間	5人	ブラジル	Adobe Premiere Pro の設定	Adobe Premiere Pro クリップのコピー・ペースト
33	3月9日(木)	2時間	5人	ブラジル	Adobe Premiere Pro 映像の編集	Adobe Premiere Pro 映像の編集(インスタント・ムービから)
34	3月14日(木)	2時間	5人	ブラジル	Adobe Premiere Pro 映像の編集	Adobe Premiere Pro 実際の撮影映像の編集1
35	3月16日(土)	2時間	6人	ブラジル	Adobe Premiere Pro 映像の編集	Adobe Premiere Pro 実際の撮影映像の編集2

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国人の子どもの意識調査(第3世代)に関する調査を、調査の準備段階から調査結果の分析まで実施した。

(10) 改善点について

- ① 調査のテーマや調査対象者は、事業実施者から与えられていることから、テーマや調査対象者に対する理解が十分ではなく、アンケート票(半構造化インタビュー)の作成に時間を要した。今後は、調査テーマや対象はそれぞれの受講者から要望ではなく決定できるように設定したい。
- ② 取材ノートの作成や編集ソフト(Final Cut Pro)操作方法に授業の中心を移した。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本事業を実施するために必要である“状況に埋め込まれた学習”を実践できる場として公民館を選んだ。実践共同体は、「言語共同体(Speech Community)」のような静的な知

識領域ではなく、知識は実践共同体内における関係性の中で常に再構成されると考える。そのため、受講者は公民館活動に参加し、地域住民との協働することから関係性を作り、結果として言語使用の社会的適性や談話能力など言語運用能力を高めていくことを目的とした。本事業の取り組みとして、地域に居住する外国人が地区の公民館活動への参加を促すことである。

この地区の小学校・中学校に在籍した経験を持つ定住外国人第2世代の若者をコーディネーターとして、同じ定住外国人第2世代を受講者として参加を募った。定住外国人第2世代が公民館の役割を認識しエスニック・コミュニティと地域社会との相互理解を深めて、ひいては地域の構成員としての市民性を形成することを本事業の目標とした。そのため、正統的参加に必要な基礎的な能力として日本語運用能力、日本語文書作成能力を育成する取組2を実施した。また、共同体への参加を通して共同体の一員としてのアイデンティティを構築する取り組みとして取組3を実施した。

(2) 事業目的の達成状況

取組1 地域参画プロジェクト

受講者は公民館の活動に広範囲に参加することができた。受講者は新山者として熟練者の近くでその活動を観察し、熟練者の活動の手伝いに従事した。参加の度合いが深まるとより責任のある活動に移行する受講者もいた。

取組2 コンピューター・リテラシー能力育成

日本語文書作成ソフトを使い、報告書、提案書、履歴書など実用的な文書を作成できるようになった。

取組3 メディア・リテラシー

公民館活動を取材し、活動の様子を日本語ワープロで報告書にまとめることや取材企画書などの作成や、取材内容を分析し、編集して配信する知識や技術を身に付け事業の目的は達成できた。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ① 定住外国人第2世代は地域住民と共同して同じ活動に従事し、地域の学習拠点として公民館の存在の認識を深めることができた。
- ② 地域住民も定住外国人第2世代の活動への参加を温かく迎え入れて相互の交流をもたらした。作業中において、熟練者と受講者との間に談話が起り学習へとつながった。談話は作業に関する談話と昨年度やそれ以前の活動（ジュニア公民館、公民館まつり）に関する談話など多様であった。

(4) 改善点、今後の課題について

今後、定住外国人第2世代が公民館活動に参加するための課題点はアクセスの問題である。適切なコーディネーターの存在がないと実践共同体の活動への生産的なアクセスが与えられず、正統的な参加から遠ざけられ学習が生起されない環境の中で活動が与えられる可能性がある。本事業により定住外国人第2世代が地域の活動に参加する基盤が整備され

ており、継続が期待される。

i 現状

本事業により、定住外国人第2世代は、地域の学習拠点として公民館の存在を認識し、自らが居住する地域文化の振興や地域住民との交流を促進するなど地域に対する関心を深くしたと思われる。

ii 今後の課題

取組1

周辺性を保ちながら正統的に参加できる形態は雇用が不安的なため、参加が不規則である定住外国人第2世代には望ましいと言える。しかし、実践共同体への広範囲で多様な参加を担保するには、定住外国人第2世代の公民館へのアクセスが問題となる。本事業を実施している間は、浜松学院大学は受講者に対して公民館活動に関する情報、機会のアクセスを担保した。今後も定住外国人第2世代が公民館の活動をゆるやかにではあるが参加の度合いを高めることで、徐々に熟練者として十全的な参加に移行していくことが求められる。将来は、彼ら自身が実践共同体の熟練者として、新しい参加者を受け入れる実践共同体の場を再生産することが必要となる。

取組2

受講者の多くは派遣労働者として工場などで単純な作業に従事している。そのため、職場において、ワープロで日本語文書を作成する機会はほとんどないと言ってよい。しかし、平成25年度も取組1と取組2の活動は継続するため本事業を離れても日本語で文書作成する能力を向上させる機会や場が確保され、日本語で文書作成能力を向上する動機付けを維持されていくと思われる。

取組3

進化するメディアを使いこなすことで情報発信が容易になり、情報の「受け手」が積極的な関与・製作者、つまり「作り手」にもなることができるようになった。地域の課題に果敢に取り組み、自らの力で発信していくことが望まれる。地域の課題に気づき、調査するためには批判的に読み解き、背後にある社会的な力の作用まで理解する力（クリティカル・メディア・リテラシー）を養うことが重要である。今後も本事業で培ったメディア・リテラシーを活用して地域の課題を取り上げて、多文化共生社会の実現に資する発信をしていくことが望まれる。

iii 今後の活動予定

受講者の全員が本事業終了後に Minority Youth Japan に参加して、Minority Youth Japan を実践共同体の場として活動している。

取組1

25年度も協働センター活動に従事していく予定である。平成25年度も北部協働センター

で外国人市民を対象とした講座が実施される予定である。

取組 2

受講者は引き続き外国人の子どもを対象としたインタビュー調査を実施している。調査を実施するために必要な日本語文書作成能力は向上している。

取組 3

エスニック・メディアとしての活動を継続している。活動の状況は <http://minorityyouthjapan.jp/> で報告している。

(5) その他参考資料

「本事業の成果を検証する。受講者に対してのフォーカス・グループ・インタビューの実施」

A) 調査の概要

本事業の成果の検証として2回にわたり、本事業の活動に参加した第2世代の青年6人の意識調査としてフォーカス・グループ・インタビューを実施した。フォーカス・グループ・インタビューを選択した理由はインタビューの中で参加者の発言が刺激となり、他の参加者からさらなる発言を引き起こすという連鎖的反応（グループ・ダイナミクス）がみられ、一対一のインタビューと比べ自然で幅広いデータが得られるからである。特定のテーマ（公民館活動を通して変容する第2世代のアイデンティティ）で、特定のグループ（事業受講者）を対象としてフォーカス・グループ・インタビューを実施したため、モデレーターはインタビューの中で設定したテーマを継続し深化させるために、インタビュー・ガイドを使用する構造的な調査を選択した。

B) 調査対象者

活動に参加した第2世代の6人の若者

	A	B	C	D	E	F
年齢	23	22	22	21	20	22
性別	男	男	男	男	男	女
国籍	ブラジル	ブラジル	ペルー	ブラジル	ブラジル	ブラジル

A) 分析の方法

インタビューデータの文字データの分析は以下の手順で行った。

(1) セグメント化

フォーカス・グループ・インタビューに参加した青年6人の発言の文字データを元の文脈の意味を変えずにセグメント化する。

(2) コーディング化

セグメントを表す名称や文句のコードを案出して付与（コード化）する。第2世代に関する文献や資料が少なく知識や情報が少ないため、予め作成したコード表に沿って分類することは難しい。そのため、文字データの中から思いつくままにコードを書き込む（オープン・コーディング）帰納的コーディングを選択した。

(3) 共通コードへ分類

書き出した全てのコードから類似する文脈を持つコードを共通コードとして分類し整理する。

(4) 共通コードを概念化

共通コードの内容を分析し、ひとまとまりの考え方にまとめる（サブカテゴリー化）。さらにサブカテゴリー間の関係性により包括的な概念（カテゴリー化）を形成する。

(5) 再文脈化

セグメントの一部を直接引用するが共通コードを活用し、再文脈化を試みる。

C) 調査結果

受講者の新しい意識として、共通コードから(1)「異質な他者との相互承認(25件)」(2)「多様性の認識と自覚(22件)」(3)「社会への発信(22件)」(4)「新しいコミュニティの創出(12件)」(5)「地域活動の参加の意義」の5つのサブカテゴリーを抽出し、「市民性形成の萌芽(87件)」を形成した。

(1) 「異質な他者との相互承認」

セグメント例

取組1の活動に対して

「外国人は支援されるばかりでなく支援できることもわかって欲しいと思う」「ぼくらは親と違い日本語も話せるし、読み書きもできる。参加できることは多いと思う」「国を超えて、同じ市民として一つになることが大切だと思う」「地域の活動に参加できて良かった。これからの自信になった」「ぼくらが住んでいるところだから責任を持つべきだと思う」

取組3 公民館活動に参加した外国人に子どもへのインタビュー調査に対して

「今の外国人子どもの問題は深刻だと思う。これからは相談に乗っていきたい」「ぼくらも小中学校でおなじような差別を経験してきた。ぼくらなりにどうすれば（どう対処すれば）わかる」「ぼくらよりもつらい経験をしている子ども多い。支援できると思う」

共通コード

「価値観や考え方の違いを認識」「協働意識」「社会への関心」「社会形成者」「支援される側から支援する側へ」「リーダー・マイノリティ」

再文脈化

多文化共生をテーマとした映像教材の作成を通して、受講者は、第3世代の存在と第3世代が抱える家族や学校の問題を知った。また、同じように差別を経験してきた外国人の子どもに対して支援する意識が生じたと思われる。受講者は公民館活動などの地域活動に準備

段階から参加した。受講者は、以前は地域活動への参加の仕方が分からず、地域社会への関心も薄かった。しかし、周辺的だが地域活動の意思決定や運営の過程に加わることで、社会の形成者としての自覚や責任が生まれたことがわかる。地域社会の人々価値観や考え方の違いを認識し、相互に認め合いながら社会的関係性を築くことの大切さを知るきっかけになった。

(2) 「多様性の自覚と主張」

セグメント例

取組1の活動に対して

「地域から（多様性を）求められていることがわかった」「外国人がまちづくりに協力していく。違う色が出るし浜松のためにもなる」「それぞれの違いが良いものを生むと思う」「今まで、違いを隠してきた」

取組3 公民館活動に参加した外国人に子どもへのインタビュー調査に対して

「先生と一緒に質問の内容を作成できたことが良かった。ぼくらの考えを聞いてくれて良かった」「ブラジル人として調査に参加して、自分の多様性を改めて自覚できた」「デカセギのぼくらだからこそ外国人の問題が理解できる。先生ひとりでは（インタビューは）無理だね」

共通コード

「多様性の再確認」「地域からの多様性の肯定的な評価」「他者との違いの活用」

再文脈化

外国人へのインタビューを通して、受講者が自らの多様性の再確認ができた。また、地域住民から多様性に対して肯定的な評価を受けたことが、地域の公民館活動の参加への動機づけとなった。以前は目立たないようにしていた他者との違いを積極的に活かす活動がエスニック・コミュニティと地域社会の双方の貢献につながるとの考えに至った。

(3) 「社会への発信」

セグメント例

取組3の活動に対して

「ポルトガル語の新聞や雑誌もあるが、ブラジル人のためにだけある。両方の国の考えを理解させるメディアが必要だと思う」「外国人のメディアの存在は意味があると思う。同じ外国人のコミュニティに属しているという意識を持つことになると思う」「（ブラジル人は）地震や津波を、すごく怖がっている。地震や災害に備えるための情報をきちんと伝えたい」「ぼくらのような若い外国人に必要な情報もポルトガル語で伝えていきたい」「ぼくらの文化を伝えたい」「日本人にもブラジル人、他の外国人とも考えを共有したい」「ぼくらの方で壁を作ってきたことも多い。その壁を取り払うためにぼくらの考えを伝えていきたい」

共通コード

「情報を発信することの重要性」「防災に関する情報の配信」「生活情報の配信」「自己の文化や情報の配信」「母語と日本語によるイベントや活動の配信」「コミュニティへの帰属意

識を強化」「(エスニック・コミュニティと主流文化集団との相互理解の促進)」

再文脈化

受講者は自ら進めるエスニック・メディアの役割は「両方の国の考えを理解させる」と発言し、日本社会とエスニック・コミュニティとの相互交流の役割を指摘した。「若い外国人に必要な情報」を発信するエスニック・コミュニティ内の機能としての役割や「地震や災害に備えるための情報をきちんと伝えたい」と防災に関する情報の発信することの重要性も指摘した。

(4) 「新しいコミュニティの創出」

セグメント例

取組1の活動に対して

「ぼくらは、多くの問題を持っているが、今のままでは解決できない。外と協力するコミュニティを作りいろいろ学び合えるようにしたい」「前にはいろいろなサークルを作っていたが、目的は自分たちのためだった。これからはもっと広い意味で外とつながるぼくらのコミュニティを作りたい」「単なるサークルでは社会は変えられない。(日本の社会に加えて) いろいろな若い外国人と協力できるコミュニティが必要」「(日系)4世は、親が帰国すると日本に居ることができないと信じできた。だからいつも不安だった」

共通コード

「身近な地域に対する愛着」「公民館の利用」「自治会活動への参加」

受講者は少年期にさまざまなサークル(自らの仲間集団をサークルと呼ぶ)を形成していた。サークル内の仲間同士は地域社会からの閉鎖性が高く、サークル内では解決できない問題が多くあることを認識している。しかし、「社会参画」を通して仲間集団の外側にある地域とつながることができるコミュニティの形成の可能性を見出している。

(5) 「地域活動の参加」

セグメント例

取組1の活動に対して

「ぼくらが育った高丘で活動することに意味があると思う」「高丘が好きだから地区の祭りや活動を盛り上げたい」「自治会にも加入して地域を変える努力をしたい」「高丘の公民館祭りに参加して、地域の人たちと交流できたし勉強になった」「公民館をもっと外国人が使えるようにしたい」「外国人が申請の仕方や使い方が良くわからない。公民館へのイメージは悪かった。外国人は利用しにくい。だけど、こちらもきちんと利用の方法を理解しないこともある。お互い理解することが大事だと思う」

共通コード

「身近な地域に対する愛着」「地域活動の参加への意義」「公民館の再認識」

再文脈化

活動に参加した受講者は浜松市内で多くの製造業が集積している高丘地区で成長した。国内外の移動を繰り返して成人した受講者は、親とは異なり成人後は学齢期の多くの時期を

過ごした場所を離れない傾向がある。そのため、地域の活動を通して、地域活動に意義を感じ、身近な地域に対する愛着が強まったと思われる。さらに、以前は自分たちのために公民館を利用することしか考えていなかったが、地域住民が交流し学び合う場として公民館の存在を認識するようになった。

D) 市民性の萌芽

受講者の市民性の形成について述べたい。本事業は、長期に渡り複数の多様な参加形態（正統的周辺参加）が可能であり、参加者は希望する時期に応じて自由に参加できた。受講者子どもの頃より成長してきた地区の活動を地区住民と協働して実施することを通して、互いの異質性を巧みに統合し、そこから新しい知識の創出や新たな社会的関係を築くことができた。ここで学習したことが、それぞれの文化集団に対する「状況に応じて柔軟に変更することも厭わない帰属意識」ⁱを形成するきっかけとなった。外国人として地域活動に参加する様々なリテラシーを身につけ、萌芽的にせよ能動的な市民性につながったと考えられる。岸田（2010）はカナダの社会的統合に対する戦略として「まとまりがあるから協働できる」のではなく「協働することによってまとまりをつくる」というプロセスを重視していると指摘している。地域社会は第2世代による新しいコミュニティの形成過程の内実を見極めながら、外国人が地域住民と協働する具体的な仕組みづくりを創出することが求められる。

参考文献

Jean Lave, Etienne Wenger(佐伯 胖翻訳) (2010)、「状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加」、産業図書

岸田由美(2010)、「多様性と共に生きる社会人と人の育成」、『異文化間教育 32号』異文化間教育学会、pp. 37-50. 2010

森本豊富（2004）、「越境者と異文化間教育」『異文化間教育 19号』、異文化間教育学会、pp. 4-16.

ⁱ森本（2003）は、トランスナショナリズムの意識構造をヴェルトヴェック (Vertovec) の「状況に応じて柔軟に変更することも厭わない帰属意識」の言葉を引用して紹介している。